

映画『ローマの休日』で、最も印象に残った訪問地を記者に問われたアン王女が「ローマです」と答えるシーンがある。私の視野を広げ、心を解放し、大きく包んでくれた魅力的な大地と人々。私にとつての永遠に忘れ得ぬ「ローマ」は中国山西省の万榮である。

北京に留学したある秋の日、それは一本の間違い電話から始まった。

「もしもし、〇〇会社ですか？」

「いいえ、違います」

先方によると、ある会社にかけているつもりが、なぜか毎回外国人の私につながるのだという。とうとうお互い笑い出し、友達になることにした。潘さんという同い年の男性で、北京で働く山西省出身の会計士だった。

電話では李白の漢詩「静夜思」や読むべき本について教えてくれたので良い人だと確信。学校で何度か会ううち、幸運にも春節に故郷で行われる本人の結婚式に招か

れた。

九州の留学生・志保ちゃんと北京を出発し、山西省の太原で潘さんの従姉の崔さんと合流。山西省発祥の刀削麺に舌鼓を打ち、世界遺産「平遥古城」や「三国志」ゆかりの地を歩き、三人で旅を続ける。崔さんとも日に日に打ち解け、「友情とは染める度に少しずつ色が深まっていく藍染めのようにだ」と感じた。

運城・万榮の村に着くと大歓迎され、初めて会う日本人を見に老若男女が次から次へと遊びに来た。

結婚式の日には朝から準備で大わらわ。なにしろ村全体が「招待客」のため大変だ。コックさんたちは大きな鍋を庭にずらりと並べて調理。春雨、かための豆腐、白菜が入ったスープと、小麦の香ばしさが立ちのぼる熱々の焼きマントウの朝食が、普段着で次々とやってくるお客さんに振る舞われた。

時間が来たので、銅鑼をたたき、チャルメラを鳴らし

ながら、大勢で真っ赤なウエディングドレスのお嫁さんを迎えにいく。花嫁は新しい靴に履き替え、馬に乗って村の入り口へ。新婦を背負った新郎は、村の青年たちからの「難問」をいくつかクリアした後、やっと家に入れるという風習だった。

式では大きなピンクのリボンを身につけた新郎新婦が天地の神や父母などを拝む「拝堂成親」に思わず見入る。



2002年、北京語言大学の恩師・ロシアの友人たちと
2002年、与北京语言大学的恩师、俄罗斯友人在一起

祝宴では夫婦が互いの腕を交差してお酒を飲む「交杯酒」に、みんなと直スプーンでついた豚の角煮スープ。透明ビーズのようなざらめ糖をザアッとかけ入れた極甘のご馳走は今でも時々思い出す。

バイクで見に行った「秋風楼」と黄河の跡地、唐辛子と黒酢で味わった独特のそば文化、抱きついて離れなかつた子供たちや纏足のおばあさんとの出会い、オンドルで毎日一緒に寝起きた潘さんのお母さん……。中国の大自然、多様で豊かな文化、そしてなにより人にすっかり魅了されてしまった。

お礼に日本の歌を歌った時、戦争の経験で日本嫌いだった人が「あなたと出会って日本人が好きになった」と言ってくれたことは忘れられない。

一本の電話がひとつの出会いとなり、こんなにも貴重な体験につながった。北京に戻る日が近づき、感謝と寂しさが胸がいっぱいになる。

漆黒のデザート・亀ゼリーののような真冬の夜空。寒風で大気が揺れる。「落っこちまい」と必死で空にしがみついた星々。その瞬きを口バと一緒に見つめながら、困難に負けず友好の信念を貫いた両国の先人を思い、「私も後に続く」と固く心に誓った。

我在中国的“罗马假日”

在电影《罗马假日》中有这样一幕，当公主被记者询问到最令她印象深刻的出访地是哪里时，公主回道：“是罗马。”而对我来说，令我永生难忘的“罗马”则是那开阔了我的视野，解放了我的心灵，充满无限魅力的中国山西省万荣的土地与人民。

一切始于某个秋日，在北京留学的我收到了一个电话。“您好，请问是某某公司吗？”

“不好意思，您打错了。”

据电话那边的人说，他原本是打给某个公司的，但不知为何每次都打到我这个外国人这里来了。最终我们都为此开怀大笑，也由此成为了朋友。他叫小潘，是一个出生于山西，当时在北京做会计工作的我的同龄人。

他在电话中教我读李白的诗《静夜思》，并告诉我应该多看哪些书，这让我确信他是个很不错的人。在学校与他见过几次面后，我很荣幸受邀参加春节他在老家举行的婚礼。

我与来自九州的留学生志保同学一同从北京出发，然后在山西太原与小潘的表姐小崔汇合。在那里，我们吃着好吃得让我直咂嘴的起源于山西的刀削面，漫步了世界遗产地“平遥古城”等地。

旅途中的我与小崔日益交心，这让我渐渐感觉到“友情就像是蓝色染布一样，越染越深”。

我们抵达运城市万荣县的村子时，受到了热情的接待。村子里为了看一眼日本人而赶来凑热闹的男女老少们也是络绎不绝。

婚礼当天从早上就开始忙碌起来。不管怎么说要招待的对象是整个村子的村民们，这实属不易。厨师们在院里排了一列大锅，进行烹饪。他们为陆续前来的村民提供了放了粉丝、豆腐块的白菜汤，以及散发着小麦清香而热乎乎的烤馒头等。

吉时已到，在喜庆的锣鼓和唢呐声中，大伙儿去迎接那穿着一身红色喜服的新娘子。新娘子换上了簇新的鞋子，坐在马上向村头走来。这里的一大风俗是，新郎须得背着新娘子通过村子里的年轻人们出的各种“关卡”后，方得进入家门。

婚礼上，披着粉色绸带的新郎新娘进行了“拜堂仪式”，我不由得看入了迷。喜宴上新婚夫妇交挽手腕喝下“交杯酒”，大家拿勺子去喝扣肉汤，因为喝汤之前要把透明得像珠子一样的砂糖放进汤里，所以那令人发颤的甜味让我难以忘记。

二年間の中国滞在は一生の宝となり、オリジナルな人生を歩む大きなヒントを与えてくれた。帰国後は新聞記者を経て、現在は中国語編集者やNPO法人での文化交流など日中相互理解に奔走する日々である。

日中関係の重要課題の一つに「若い世代への継承」がある。そのために、いかに「一人」と出会い、相手国に関心を持ってもらうか。いかにメディアを有効活用し、若者の直接交流を増やしていくか。

私は「日中の若者が一緒に日本と中国を旅するテレビ番組をつくり、両国で放送する」ことを提案したい。観光地だけでなく、今まで知られていない場所も紹介。土地の人情に触れ、新しい発見をし、友情を育み、恋も、時にはけんかや議論をしながら相互理解を深めていく。見る人の声も生き生きと反映できる視聴者参加型にすればいっそう盛り上がるのではないか。番組や関連イベントで現役留学生や留学経験者に現地での経験を伝えてもらう。また、YouTubeやスマホのアプリを活用し、文化の差異に着目したコンテンツを両国の若者が共同開発するのも面白い試みとはならないか。幼少時から相手国に興味を持ってもらうため、未来の若者への向けの番組をつくるのも大切だと思う。

未知の体験に、認識の更新、新しい感覚に、懐かしい感覚……。それぞれの「ローマ」を見つけてほしい。隣人に対する関心・共感の中にこそ友好の源があると信ずる。まず互いに興味を持ち、好きになること。それがあって初めて、日中友好の様々な枠組みが生かされ、政府や民間の努力も実を結んでいくのではないだろうか。「友好の銀河の輝きよ、永遠なれ！」と願ってやまない。



遠藤英湖（えんどう えいこ）

東京都出身。英国・ロンドンで生まれ、幼少期をインドとベルギーで過ごす。慶應義塾大学総合政策学部卒業。二〇〇一年～二〇〇三年、北京語言大学に留学。二〇〇四年～二〇一三年、中国語新聞『東方時報』記者。二〇一三年～現在、各種翻訳・編集業務に従事。NPO法人田漢文化交流会理事。東方文化芸術団理事。工学院大学孔子学院中国・アジア研究センター客員研究員。

远藤英湖

祖籍東京，出生于英国伦敦，童年在印度和比利时度过。毕业于庆应义塾大学综合政策学部（系）。2001年～2003年，赴北京语言大学留学。2004年～2013年担任中文报纸《东方时报》记者。2013年至今从事各种翻译、编辑工作。担任NPO法人田汉文化交流会理事，东方文化艺术团理事，工学院大学孔子学院中国・亚洲研究中心客座研究员。

我们骑着摩托车一起去了秋风楼、黄河遗迹等地，见识到了用辣椒和黑醋调理出来的独特的面文化、常常给我拥抱的孩子们、缠过足的老奶奶、和每天在炕上与我同眠的小潘母亲……中国广阔无边的美景，丰富多彩的文化，更为重要的是这里的人们，这一切都让我沉迷不已。

最令我难以忘怀的是，当我唱了一首日语歌作为感谢时，那些因为战争而对日本深恶痛绝的人对我说的“认识你之后才开始对日本人有了好感。”

一个打错的电话成就了这样的交流，带来了无与伦比的珍贵体验。随着回京的日子愈来愈近，我满怀感激与离别前的寂寥。

深冬的夜空仿佛龟苓膏一样漆黑一片，空气也随着冷风在摇摆。为了“不坠落”而拼尽全力紧紧吸附于天空的群星，与身边的骡子一同仰望那闪闪光芒，让我想起了不畏困难始终坚持友好信念的两国先行者。不禁在心里发誓：“今后也要追随他们的脚步。”

在中国留学的那两年成为了我一生的宝贵财富，让我体验到与众不同的人生，也给我无数的启发。回国之后的我先是当了记者，现在则是作为一名中文编辑兼NPO法人的理事，奔走于促进日中文化交流等推进两国相互理解的工作之中。

日中关系的一大课题是，“面向年轻一代的传承”。那么为此我们要如何才能将人与人联系起来，使得人们对对方国家抱有兴趣。又如何高效利用媒体，推进年轻人之间的直接交流呢？

我的建议是，制作日中年轻人在两国旅行的电视节目，并在两国播出。不仅是去报道有名的景点，也为大家介绍此前未曾耳闻的地方。接触当地的风土人情，寻找新的发现，在这过程中或孕育友情，擦出爱情火花，在偶尔的争吵与讨论中，加深对彼此的理解。要是能做成观众互动类型，将他们的声音也切实反映出来就更加精彩生动了。

通过制作节目和举行相关活动，向大家展示当地留学生及有过留学经历的人在当地的生活。此外还可以利用YouTube及手机App，由两国年轻人共同开发出一些有关文化交流的作品，也是一种有趣的尝试。在我看来，为了让大家从小就对彼此国家抱有兴趣，面向“未来的年轻一代”制作节目是至关重要的。

前所未有的经历、新的认知与感觉、令人怀念的情愫……我希望大家能寻找找到自己的“罗马”。我相信，只要我们对对方抱有兴趣和好感，然后通过各种团体举行各式各样的活动，让两国政府与人民的努力开花结果。我在心中祈祷：愿这友谊的光芒，永远闪耀！